

鉱山を歩く

中村唯史（島根県立三瓶自然館）

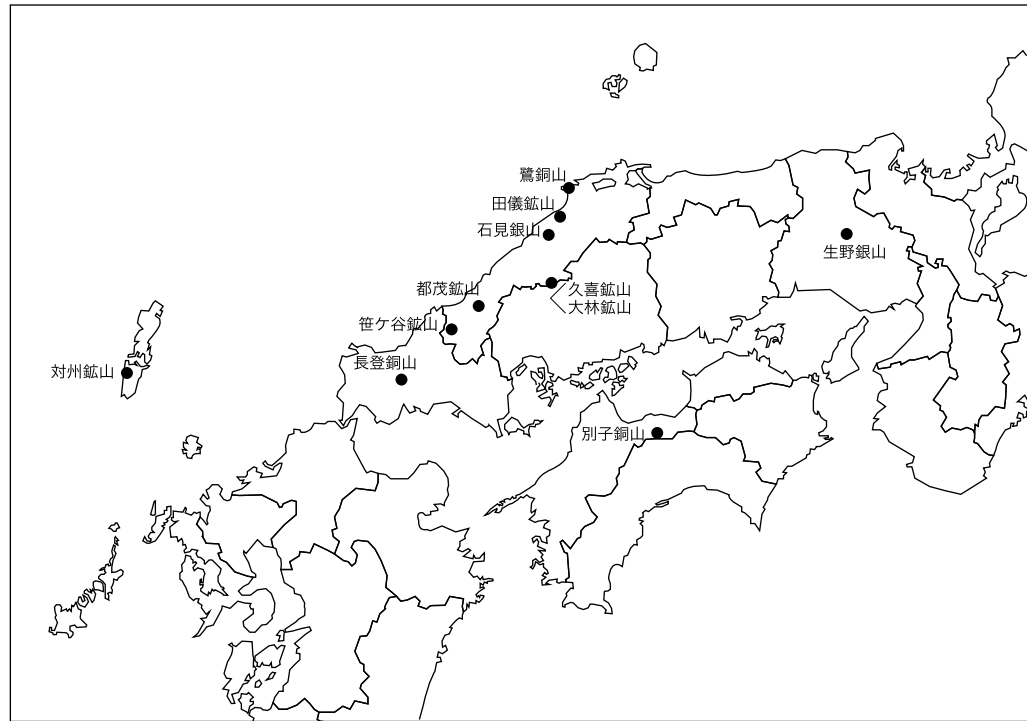


図1. 案内図

表1. おもな鉱床型と特徴

熱水鉱床	マグマによる熱水（温泉）の活動によって形成される鉱床。マグマから放出される水（水蒸気）やマグマと接触して加熱された地下水から鉱物が晶出してできる鉱床。
スカルン鉱床	マグマと堆積岩（とくに石灰岩）が接触し、岩石と熱水が反応することで単斜輝石や鉄ザクロ石などの鉱物が生成されてできる鉱床。
黒鉱鉱床	深海底で噴出した熱水から資源鉱物が沈殿し、それが堆積してできる鉱床。日本列島に特徴的に分布。亜鉛や鉛、銅など様々な鉱物を含む黒い鉱石が名前の由来。
キースラガー鉱床	海底の熱水活動でできた鉱床がプレート沈み込み帯で変成作用を受けてできる鉱床。別子型鉱床の別名があるとおり、別子銅山が代表的。
火成鉱床	マグマから直接鉱物が晶出してできる鉱床の総称。マグマが冷却される過程で元素の分化が生じ、特定の元素を高濃度で含む鉱床が形成される。
堆積鉱床	風化、堆積作用の過程で特定の鉱物が濃縮してできる鉱床。砂金や砂鉄、珪砂、堆積成鉄鉱床などがある。

(1)都茂鉱山

位置：島根県益田市

鉱床型：スカルン型

形成時期：後期白亜紀

主な鉱物：黄銅鉱、斑銅鉱、閃亜鉛鉱、方鉛鉱、磁硫鉄鉱、磁鉄鉱

＜開発時期など＞

「日本三代實録」に881年に銅を発見と記述。14～15世紀の製錬跡（大年ノ元遺跡）が発見されている。

1602年に幕府直轄地として経営される。1983年まで稼働。

(2)笹ヶ谷鉱山

位置：島根県津和野町

鉱床型：スカルン型

形成時期：後期白亜紀？

主な鉱物：黄銅鉱、硫砒鉄鉱、閃亜鉛鉱、斑銅鉱、黄鉄鉱、磁硫鉄鉱、赤色酸化銅、自然銅、孔雀石

＜開発時期など＞

1300年代（弘安年間）に発見との口伝がある。本格的な開発は1500年代後半に始まったとみられ、堀氏が大内氏に鉱山技術者の派遣を依頼した記録が残る。慶長年間後、亜ヒ酸を生産。

(3)久喜鉱山・大林鉱山

位置：島根県邑南町

鉱床型：熱水型

形成時期：古第三紀

主な鉱物：方鉛鉱、閃亜鉛鉱、黄銅鉱、硫砒鉄鉱

＜開発時期など＞

1500年代中頃、毛利氏の支配下で銀の生産が行なわれていた。発見はさらにさかのぼる可能性有。明治時代、堀家が再開発。

(4)五十猛（鳴滝山）のなまり山

位置：島根県大田市

鉱床型：熱水型（黒鉱を伏在？）

形成時期：新第三紀

主な鉱物：黒鉱（方鉛鉱、閃亜鉛鉱、黄銅鉱）

＜開発時期など＞

1600年前後（慶長年間）の開発と伝わる。山中家文書には18世紀後半に灰吹用のなまりを採掘した記録がある。隣接する石見鉱山は黒鉱型鉱床で、鉛、亜鉛、銅などを産した。現在はゼオライトを採掘。

(5)生野銀山

位置：兵庫県朝来市

鉱床型：熱水型

形成時期：後期白亜紀～古第三紀

主な鉱物：黄銅鉱、閃亜鉛鉱、方鉛鉱、硫砒鉄鉱、錫石、黄鉄鉱、斑銅鉱、四面銅鉱、黄錫鉱、褐錫鉱、輝蒼鉛鉱、自然蒼鉛、輝銀鉱、濃紅銀鉱、淡紅銀鉱、脆銀鉱、自然銀、自然金、鶏冠石、磁硫鉄鉱

＜開発時期など＞

807年に銀鉱脈の露頭発見。1541年、銀山として本格操業が始まる。1973年休山。